

## 『最高の学年』

柏原中学校三年 大沢 あみ

私は、今年度、三年生になり、昨年度から引き続き、学級委員という立場で、学年全体がより良い集団になるように、取り組んでいます。

私たちの学年は、一年生の頃から、まるごと仲良くなるための活動をしています。今日は、その中の三つの取組を紹介します。

一つ目の取組は、仲間作り集会です。この集会は、月に一回、学級委員を中心に、仲間づくり委員という、生徒会役員を含む有志が、企画・運営をします。集会では、まず歌を歌います。曲の感じや歌詞に合わせ、肩を組んだり、手をつないだりして歌います。今までは、みんなの前に出ている学級委員や先生が、指示をしなければできなかつたけれど、最近では、自然と手をつなげるようになる人が増えました。歌を歌い終わったら、レクレーションが始まります。このレクは、まるごと仲良くなるためのものなので、全員が楽しく参加できるものを考えます。例えば、ドッジボールでは、

男子がたくさんボールを投げる機会が多く、女子は、あまりボールに触れず、楽しくありません。そこで、ボールを二つ用意して、片方のボールは全員が使えるボールにし、もう一つのボールは、女子だけが使えるボールにしたら、男子も女子も楽しくできました。

このように、みんなが知っている遊びを、少し工夫して、手を加えたりして、仲間作りをしていきます。

二つ目の取組は、交歓給食です。これは月に一回行われ、交歓給食前日に、学級委員が作ったくじを引き、席を決めます。このくじには、仲良くなるためのヒントや占いが付いています。仲良くなるためのヒントというのは、例えば、「渡辺先生の肩をもんであげよう。」とか、「小西さんとハイタッチしよう。」など、誰かと触れ合えるようなことが、ヒントとして添えてあります。そして、交歓給食のくじで決まる班は、必ずクラスが交ざるようになっていて、先生方も、くじ引きで決まった班で給食を食べていただきます。くじ引きなので、たまに男子ばかりの中に、女子が一人などという班ができてしまい、かわいそうだという声もありましたが、仲間作りのためなので、そのまま続けてやっていくことになりました。

三つ目の取組は、友だち表彰です。これは、各学期

末に、掃除を頑張った人や、授業に積極的に取り組んでいた人など、部門ごとに、二人ずつに書いてもらうアンケートを取り、票数の多かった人を表彰する取組です。中でも、私が「いいな！」と思う部門は、「みんなの知らないところで頑張っていた人」という部門です。この部門は、毎回色んな人の名前が挙がっていて、学級委員も気づいていなかった表彰もありました。この部門で表彰される人は、人知れず地味に取り組んできた頑張りが、みんなの前で表彰されることで、学年全員に知ってもらうことができ、何か一つプレゼントをもらったような気持ちになれるので、いい表彰だと思っています。また、何度か表彰されると、その部門の「大隊長」に任命されます。現在大隊長になっている人は、四人もいます。今後、大隊長が増えてくれるといいと、思っています。

こうした取り組みが実って、三年生になった今年度は、さらに、友だち同士の仲が良くなりました。先日、京都・奈良に行った修学旅行でも、班行動がきちりできたり、旅行二日目の夜に実施した、仲間作り集会では、全員、和気あいあいの中で、有志による出し物を、十分に楽しんだりすることができました。

一年生から二年生の前半の頃は、学校生活の中でルール違反があつたり、仲間関係がぎくしゃくしたりすることもありましたが、まるごと仲良くする活動によつて、そうしたことも、だんだんと消えていきました。

私たちの学年には、学校に来られない、不登校の友達は一人もいません。仲間作りの活動のお蔭で、あいさつもよくできるようになりました。また、授業中の挙手や発言も、二年生の時より三年生のほうが、ずっと多くなりました。私たちは、三年生になり、最高学年となりましたが、中身も最高の学年だと、自信を持って言えます。

私は、できることならば、中学校を卒業しても、この学年のまま高校生活を送りたいと願っていますが、それが無理なことは自明の理として、自分に言い聞かせています。

来年度は、今の学年もばらばらになり、それぞれの進路先で、また新しい仲間と生活することになります。そうであっても、ぜひ柏原中で培った仲間作りの体験を思い出し、仲間作りの力を、それぞれの場所で発揮し、それぞれの場所で再び、仲良しの素晴らしい仲間を率先して作ってくれることを願っています。

